



高齢者事故的なあざに関する研究からの所見

- あざの色は年齢に関係していませんでした。あざは1日目からどんな色にでも起こりえます。
- 90%の事故的なあざは首筋や頭部よりむしろ四肢に見られました。
- 事故的なあざを持つ4分の1以下の高齢者の人々はどのようにしてそれらを得たのかを覚えていました。
- ある種の薬を服用している高齢者の人々はより複数のあざがしやすいのですが、それらのあざは薬を服用していない人々のあざよりも長続きしませんでした。

身体的虐待された高齢者のあざは、

1. 大きいです。身体的虐待を受けたあざを持つ高齢者たちの半数以上は、少なくとも1つあたりのあざが直径5cm（約2インチ）あるいはそれ以上の大きさでした。
2. 身体のどこにでも起こりえます。しかし、そのあざが顔、腕側面、あるいは前方（内部）表面、または背中にあるかどうかに注意してください。虐待されたあざのある高齢者たちは偶然にあざを作った高齢者たちよりもそれらの範囲によく見受けられます。

そして、お願いします。

3. どうか高齢者にあざについて尋ねてみてください—優しくそして個人的に。身体的虐待を受けたあざを持つ90%の高齢者たちはどのようにそのあざを得たのかをあなたに話すでしょう、そしてこれは多くの記憶障害や認知症の高齢者たちを含んでいます。